

## 論文審査の要旨及び審査委員

(2,000字程度)

報告番号	甲 第 40 号		氏 名	宮崎 友裕		
論文審査 審査委員	氏 名		職 名	氏 名		職 名
	主 査	田中 恒夫	教授	委 員		
	委 員	王 鋒	教授			
		森田 哲夫	教授			
小熊 仁		教授				
平川 隆一		准教授				

論文題目：地域連携に着目した鉄道駅と道の駅のまちづくりへの活用に関する研究

少子高齢化や人口減少が進行する中で、地域の活力と生活機能の維持に向け、鉄道駅等の交通拠点为核心として生活サービス機能を集約するコンパクト化が重要となっている。鉄道駅の駅前広場は従来から都市計画制度の下で交通拠点として整備されてきたが、鉄道利用者へのバスの乗換など交通結節点としての機能に加え、都市や地区の拠点となる市街地拠点機能や人々の集まる場所としての機能など、交通機能以外の役割が求められている。

一方、道路における交通の拠点として整備されてきた道の駅についても、近年では、地域の工夫により、観光の目的地や地域の拠点として期待されている。いずれの交通拠点においても、交通機能に加えて、地域の魅力発信や来訪者の利便向上を担うという交通以外の機能の強化が求められており、立地特性に応じて、地域の分野・機能（都市計画・観光・防災・管理運営）を超えた連携が重要になってきた。

本研究の目的は、鉄道駅や道の駅を、都市計画等に位置付けた上で、交通機能に加え、地域の観光・防災など多様な機能を担う拠点として、まちづくりに活用するための方策を明らかにすることである。本研究では、「地域連携」を、鉄道駅と道の駅やその周辺の空間の課題を認識している主体が課題解決に向けて協働する関係性のこと、「まちづくり」は、観光や都市計画といった政策の「分野」と、関係者の連携や住民参加による活動という「進め方」の2つの観点をまとめた総称と定義としている。

本研究では、「問い」として以下の3点を設定している。

A)道の駅・鉄道駅などの交通拠点の機能や質に対して、住民・来訪者・施設管理者はどのような意識を持っているか。

B)交通拠点をまちづくりに活用するには、関係者間でどのような連携体制が望ましいか。

C)交通拠点は、都市計画・防災・観光などの他の分野でどのような位置づけがなされているか。また、今後どのように位置づけていくことが望ましいか。

住民・来訪者の意識について、来訪者満足度アンケート調査結果から、道の駅の満足度に影響の大きい項目について、来訪時の満足度に加えて来訪前の期待度も考慮し、回帰分析により分析した他、対象地域へのリピーターと非リピーターの差異を統計的検定により分析した。また、住民の景観意識アンケート調査結果から、交通施設とその周辺の景観が住民の景観イメージに与える影響を分析した。

関係者間の連携体制については、群馬県の道の駅管理者や行政の担当者が主に参加するワーキング形式の連携の事例について、参加した道の駅の議事内容の集計や、駅前広場の整備計画の検討過程を、アンケート調査結果やワークショップの議事から整理し、駅前広場に対する住民の意識やニーズの反映方法を検討した。この他、観光分野との連携に着目し、道の駅との連携を計画で示している全国の地域DMOへのアンケート調査から、DMO・道の駅間の連携を検討した。

他の分野における位置づけについては、関東地方の道の駅を対象に、GISによる分析や文献調査から、都市計画上の立地や防災計画への位置づけの現況を収集した上で、クラスター分析による類型化を行い道の駅のまちづくりへの活用に向けた方向性を検討した。また、観光地域づくりを担う各DMOの計画を調査し、対象区域内の道の駅との連携や関係構築の実態を整理した。

以上より、A)交通拠点の多機能化を進める際にも、基礎的な機能が前提となることが示唆されたこと、B)関係者間の対話や利用者・住民の意見を収集する仕組みを、交通拠点の運営や設計に関するガイドラインや手順の中に位置付けることが重要な視点であると考えられること、C)防災および観光分野において、道の駅が位置付けられていない事例もあり、連携体制の構築の必要性が示され、交通拠点の多機能への活用を促進する上では、交通分野以外の計画に位置付ける手法が共有されることが求められること、の3点を示した。

博士学位論文の予備審査においては、審査委員より多数の意見や修正依頼があった。中でも予備審査時の論文題目である「交通拠点のまちづくりへの活用に関する研究」について、「交通拠点」の定義が不明確であり、かつ意味する範囲が広すぎるとの意見があった。そのため、題目を「地域連携に着目した鉄道駅と道の駅のまちづくりへの活用に関する研究」に変更し、論文全体を修正した。また、審査委員より、研究の考え方・理論構成、用語・概念の検討、定義、分析方法の説明等に関するいくつかの意見を受けたが、これらの点について十分修正されている。本研究は、地域連携に着目した鉄道駅と道の駅のまちづくりへの活用について、博士学位論文の水準に十分達しており、都市行政、道路行政のために有用な研究成果をあげている。

以上のような博士学位論文の審査経過を踏まえ、合わせて申請者の既発表論文の内容、質疑応答、本審査の結果から総合的に評価し、博士学位論文として合格と判断した。